

「抗血小板剤服用継続下胃 ESD における血小板凝集能に関する検討」へのご協力をお願い

代表者 所属：内科 職名：専攻医 氏名：平田 翔一郎
共同担当者 所属：内科 職名：院長補佐 氏名：竹中 龍太

1. 目的

抗血小板剤服用患者に対する胃 ESD では、チエノピリジン系薬剤や抗血小板剤多剤服用患者において後出血の頻度が増加することが知られている。血小板凝集能は抗血小板剤を服用する脳血管障害や虚血性心疾患患者の二次予防の指標として利用されているが、抗血小板剤服用患者の胃 ESD に関して検討した報告はない。今回、当院における抗血小板剤服用継続下での胃 ESD を施行した症例について、その患者背景因子と血小板凝集能の関連について後ろ向きに検討を行った。

2. 対象と方法

下記期間において治療前に血小板凝集能を測定し抗血小板剤服用継続下で胃 ESD を施行した 67 例のうち、抗凝固薬を併用していた 5 例を除外した 62 例を対象とした。抗血小板剤はチエノピリジン系（クロピドグレル、チクロピジン）、低用量アスピリン、シロスタゾールとし、これら以外の抗血小板作用を有する薬剤のみ服用する症例は除外した。血小板凝集能測定装置 PRP313M（TAIYO 社）を用いて算出されるグレイドタイプ判定（G-Type）について評価検討を行った。

3. 研究期間

2013 年 4 月 1 日 ～ 2019 年 3 月 31 日

4. 調査票等

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきます。あなたの個人情報は削除後匿名化し、個人情報などが漏洩しないようにプライバシーの保護には最新の注意を払います。

- ・年齢、性別、家族歴、既往歴、嗜好、診察初見など
- ・検査データ、画像データ、手術記録、病理記録など
- ・治療内容、有害事象など

5. 情報の保護

調査により得られたデータを取り扱う際は、被検者の秘密保護に十分配慮し、特定の個人を識別することができないようにします。

個人情報 は完全に秘匿されておりますのでご安心下さい。もし患者様自身やご家族の情報が研究に使用されることについてご了承頂けない場合には研究対象としますので下記までご連絡下さい。

津山中央病院 病院長 林 同輔

連絡先：電話 0868-21-8111（担当：内科 平田 ）